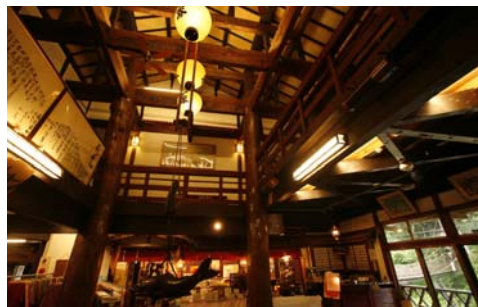


湯西川温泉
平家隠れ宿
本家伴久
萬久旅館



施設概要
 栃木県日光市湯西川温泉749
 TEL 0288-98-0011 / FAX 0288-98-0666
 http://www.bankyu.co.jp/
 室数 45室
 料金 15,750円～
 浴場 大浴場・内風呂、露天風呂男女各1、貸切風呂3
 チェックイン 15:00 / チェックアウト 10:00
 アクセス 会津鬼怒川線湯西川温泉駅よりバス30分

右/平家の隠れ宿として人気の宿
 中/大自然の中に架かるかずら橋
 左/木の温もりと歴史を感じさせる館内

システムを見直し、燃料費の大幅コストダウンへ



お話を伺った
浅野容宏常務

奥日光・湯西川にある『本家伴久萬久旅館』では、老朽化した循環システムのリノベーションを行なったことで、燃料費の大幅コストダウンに成功したという。

リノベーションを行なった経緯やその後の変化について、本家伴久萬久旅館 浅野容宏常務と今回企画・設計・施工を担当した東京技営株式会社 山形直人部長にお話を伺った。

老舗旅館のリノベーション

大自然の中に含まれた奥日光・湯西川にある『本家伴久萬久旅館』は、深山幽谷の平家ゆかりの里として三百余年の歴史を持つ人気の温泉旅館である。平家直系二五代の伝統を受け継ぐ老舗宿では、全国各地から銘木、古木を吟味し、要となる床柱や欄間、天井、家具等に用い、和風の館内、客室とも天井が高く優雅な空間を演出している。

また、目の前を流れる湯西川に手の届くほどの絶景眺望露天温泉は、こんこんと湧き出でる湯西川温泉発祥の源泉として人気が高い。

この本家伴久萬久旅館では、2007年に温泉の循環システムのリノベーションを行なったところ、確実にその効果が現れているという。リノベーションを行なった理由は、源泉系統も含めた温泉循環システムが古く運転効率が悪かったため、それに伴う燃料消費が多かったことであった。今回お話を伺った浅野容宏常務は温泉旅館で50年働いているというキャリアから、光熱費や燃料費といった経費を調査し、他の旅館に比べ約3倍もかかっている事実を知り、経費削減に踏み出したのだ。

最初に着手したのが温泉の過循環システムを一新すること。当初、業

者に見積りを依頼したところ、2ヵ月間の休業を伴うリニューアル案が出てきたが、長期休業は旅館を運営する上で到底出来ないという理由で、東京技営株式会社に調査を依頼。3日間の休館で温泉のろ過循環システムのリノベーションを行う計画があがって来たので依頼することとなった。

ろ過循環システムの見直しで効率よく温泉を使う

男女大浴場に、内風呂と露天風呂が各1という計4つの浴槽に対し、リノベーション前はろ過装置が1台。リノベーションで、1浴槽1ろ過装置に変えた。また、各浴槽の源泉量を管理出来るシステムを導入した。これらにより、システム全体の効率が良くなり、燃料費の大幅削減へとつながった。

次に、源泉かけ流しの貸切風呂や露天風呂付き客室は24時間かけ流しそのまま垂れ流していた温泉を、必要適時に向け流し、その他の時間帯は大浴場へ温泉を回すシステムに変更した。このことにより、限りある温泉資源の節約ができ、湯量の省エネが実現した。

さらに、各浴槽の湯量管理を行ったことで、大浴場の浴槽から湯漏れがあることが発覚。旧式の建築のため、湯漏れの受け皿が無い状態の

「多額の工費を投入するというリスクはありますが、その後の費用対効果を考え、資金投入というリスクを背負う事が必要な時もあります」と語る浅野氏は、常に旅館側も勉強し、業者任せにせず、自分の旅館に必要なことは何なのか、どのようなように依頼したら旅館にとって一番良いリノベーションになるのかを考え、業者と意見交換をしながらリノベーションを行なうことが成功のポイントだと語ってくれた。

東京技営
 東京都千代田区岩本町3-2-2
 千代田岩本ビル
 TEL 03-3862-8606
 FAX 03-3862-8609
 http://www.giei.net/

右/大浴場「公達の湯」
 中・左/湯西川を望む露天風呂



まま毎日無駄に温泉を捨てていたことに気づいたのだ。湯漏れに関しては、全面リニューアルするには費用と時間という2点の問題が大きすぎるため、漏れが発覚した場所を修復するに留めた、これらのリノベーションの結果、燃料費は月100万円も削減された。リノベーション当初、工事費の回収期間は3年と計画されていたが、昨今の燃料費の高騰を受け、3年もかからずに回収できる見込みだ。

常に知識を持つこと

燃料費の高騰が始まったのはリノ

ベーション後、月100万円というコストカットに成功した後の燃料費の高騰に「あのままリノベーションを行なっていたらと考えると恐ろしい」と語る浅野氏は、「当館がリノベーションを行なうことは、古さという伝統と近代化の融合だと思いません」という。本家伴久萬久旅館のような伝統のある旅館では、外観・内観ともに昔ながらの設えが売り物である。しかし、温泉の安全・衛生管理や館内の冷暖房等の設備は新しいものに変え、現代人の生活スタイルに合わせていく必要もあるのだ。

今回のリノベーションにより大幅コストダウンに成功した両氏はこう語る。「リノベーションは今自分の施設に必要なことは何かを自分の頭で考えること。プロに依頼する場合でもしっかりと知識を持ち、何をどう

東京技営 1/3AD